

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-057	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Drinking Patterns in US Counties From 2002 to 2012. 2002年から2012年における米国の飲酒習慣		
<b>執筆者</b>		
Dwyer-Lindgren L, Flaxman AD, Ng M, Hansen GM, Murray CJ, Mokdad AH.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Public Health. 2015 Jun;105(6):1120-7. doi: 10.2105/AJPH.2014.302313.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、過度飲酒、大量飲酒、有所見率、米国		25905846
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 米国各州における2002年から2012年までの飲酒習慣、過度飲酒 (binge drinking) の習慣、2005年から2012年までの大量飲酒 (heavy drinking) の習慣について、これらの有所見率を推定した。</p> <p><b>方法：</b> Behavioral Risk Factor Surveillance System(BRFSS)データを用いて小地域推定モデルにより分析した。これらのモデルを用いて空間的・時間的平滑化処理を組み込み、調査期間における BRFSS データに対する分析方法の変更を調整した。</p> <p><b>結果：</b> 州毎にあらゆる飲酒習慣が大きく異なっていた。2012年において、飲酒習慣を有する者の割合は11.0%から78.7%、大量飲酒の習慣を有する者の割合は2.4%から22.4%、過度飲酒の習慣を有する者の割合は5.9%から36.0%と、州毎に様々であった。大量飲酒および過度飲酒の割合は2005年から2012年にかけて増加傾向にあったが、増加の程度はかなり変化していた。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒習慣に関してその水準および最近の傾向は米国内州毎で大きな違いを認めた。大量飲酒や過度飲酒を減らすための介入や状況把握の計画・実施にこれらの推定値を参考として用いるべきである。</p>		